

✈ 海外生活 だより

ニューヨーク事務所

これって児童虐待？ それともアメリカ人が過保護なの？ ～児童の安全とは～

(財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐
今川 勝之 (警視庁派遣)

これって児童虐待？

皆さんは「児童虐待」と聞くとどういったものを想像するでしょうか？

やはり両親や保護者による肉体的、精神的虐待などを想像されると思いますが、日本人の感覚とアメリカ人の感覚はかなり違う面があります。

私が住むニュージャージー州や隣のニューヨーク州でも子どもを一人で家で留守番させたり、一人で外出させることは禁じられています。もちろん、年齢が高くなればこれは緩和されます（大体12歳くらいであればOK）。一人で留守番をさせるということは児童虐待（育児放棄）と見なされてしまい、ましてやしつけと称して体罰を与えたりすることなどもってのほかです。これは法律で決まっており、これに違反すると両親が逮捕されてしまいます。ですから、アメリカの街なかで小学生が一人で歩いていたたり、子どもだけにいるという光景はほとんど見ることはありません。

私の娘も現地の学校に小学3年生として通っていますが、3年生に進級した際に子どもの通学について「子どもの単独登下校を許可するか、しないか」という書面にサインをさせられました。私の娘が通っている小学校は3年生になると子どもの単独通学（距離によって制限がある）ができるようになりますが、ほとんどの子どもは親が付き添って登下校します。学校側も下校時には先生が校舎の出入口に待機しており、親の顔を確認してから子どもを下校させます。私も子どもの単独登下校を許可しないという欄にマルをつけてサインをしたので、娘を学校に送ってから職場に出勤するのが日課です。

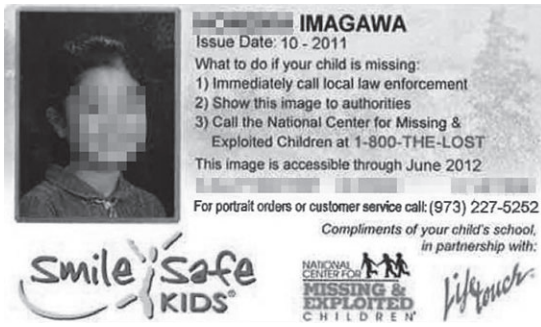
子どもと一緒に風呂に入ってはダメ！

また、日本ではごく当たり前の光景ですが、親子でお風呂に入るといってもアメリカでは考えられないことです。もちろん年頃の女の子がお父さんとお風呂に入らないということではありません。3、4歳の子どもでも両親と一緒に裸でお風呂に入るといことはタブーなのです。なぜかと言えば、子どもに性的虐待を加えている可能性があると思われるからです。宮崎駿監督の「となりのトトロ」というアニメ映画を皆さんもご覧になったことがあるかと思いますが、この映画はアメリカでも公開されました。この映画のワンシーンに主人公の姉妹が父親と一緒に風呂に入るシーンが描かれています。ほのぼのとする親子の団欒シーンとして日本人は受け止めますが、アメリカ人の親御さんからしてみると「Unbelievable! (信じられない!)」とのけぞるシーンとなるわけです。ほとんどのアメリカの子どもたちは自分の両親の裸を見たことがないというアンケート結果もあるのです。

子どもの写真と指紋を家に常備

逆に私たち日本人には理解し難い面もたくさんあります。皆さんの小学校では子どもの個人写真を毎年撮るでしょうか？アメリカの小学校では必ず子どもの個人写真を毎年撮ります。もちろん料金は掛かります。私は「毎年子どもの立派な個人写真を撮るなんて非常に素晴らしい習慣だ」と考えていました。すると後日立派な個人写真と一緒に変わったカードが送られてきました。なんだろうと思って見てみると、そのカードには学校で

撮った子どもの個人写真が印刷してあり、添え書きには子どもの名前、緊急の連絡先、年齢、身長、体重、髪の毛の色、眼の色、その他の特徴といったことを記載する欄があるのです。さらによく見てみると、「もしあなたの子どもが行方不明になったときはすぐに警察に知らせること。そしてこのカードを警察官に見せること」と記載がありました。



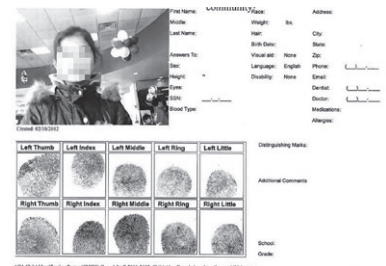
名前、緊急時の対処方法が記載されている



カードの裏 年齢や身長、体重等を書く欄がある

同じようなことが先日もありました。家族でショッピングモールに買い物に行ったところ、広場で催し物をやっており、人だかりができていました。近寄ってみると、何やら子どもの指紋を採っているようです。子どもの指紋を採るなんて、そんな犯罪者扱いじゃないかと思っていたところ、そこの係員の男性は笑顔で私の娘にも声を掛けてきました。私とその係員に何をしているのかと聞くと、彼は「あなたのお子さんの指紋を採ってカードを作ってあげますよ。もし、お子さんが行方不明になったとき、この指紋カードを警察に渡せばお子さんを探す手掛かりになりますから。この指紋採取機はFBI（米連邦捜査局）の認可済みの高性能のものですよ」と私に何か楽しいお土産をくれるような雰囲気と言うのです。今度は私がのけぞる番でした。子どもの指紋を家に保管しておいて、行方不明になったら警察に渡せて？本当に

信じられませんでした。しかし私も後学のためにと子どもを説得してその指紋カードを作らせました。娘は指紋を採る機械が珍しかったらしく、まんざらでもない様子でしたが…。



写真・氏名・身体特徴記載欄とともに指紋が印刷されている

国は違えどわが子を思う親の気持ちはどこも同じ

アメリカでは毎年80万人以上の子どもが行方不明として警察に届出をされています。1日2,000人以上となる計算です。日本で家出人捜索願（子どもも成人も全て）の届出件数が年に10万件弱であることを考えるとこの数は途方も無い数字です。もちろんこの80万人全てが誘拐されたり、殺されたりしたわけではありません。先ほどからお話しているように子どもは親と常に一緒にいるわけですから、少しでも子どもがいなくなったら真っ先に警察に届出をするわけです。思春期を迎えた子どもが家出をするということは、アメリカでも日本でもよくあることです。この数字の90%以上は短期的な家出と考えられます。しかし、それを差し引いてもアメリカでは年間10万人近い子どもたちが行方不明になっていると言えるのです。

わが子を大切にするという気持ちはアメリカの親御さんでも日本の親御さんでも変わりません。自分の子どもの写真を持ち歩き、自宅には指紋データを用意して子どもの行方不明に備える。そして、絶対に子どもを一人にはしない。

文化の違いもあるでしょうが、そこまでしなければ自分の子どもを守ることができないというアメリカの子どもを守るシステムを知り、幼児と言えるような子どもが一人で買い物に行き、紆余曲折ありながらも買い物を無事に終えるというほのぼのとしたテレビ番組が受ける日本という国がいかに平和な国であるかということであらためて感じた出来事でした。